

英語活動研究部

【平成24年4月現在】

主任 岩淵 淑子

部員 吉谷 瑞穂 落合 麗子

研究主題

豊かなコミュニケーション能力を育てる英語活動

～自分の思いをもって自己表現する場の設定の工夫を通して～

めざす子ども像

よく考え相手に伝えるための自己表現を工夫し、進んでコミュニケーションを楽しむ子ども

研究目標

児童のコミュニケーション能力を豊かにはぐくむためには、自分の思いをもたせる自己表現の場の設定を工夫しながら、発信と受容の方法を学ばせ、人と関わり合う活動を充実させることが有効であることを実践的に明らかにする。

研究仮説

自分の思いを相手によりよく伝えるためにはどうすればよいか考えたり自己表現したりする場の設定を工夫することで、豊かなコミュニケーション能力を育てることができるだろう。

研究主題について

1 主題設定の理由

本校では平成15年度から全校児童が1年生から英語に触れてきているため、英語に対する抵抗が少なく、ゲームやチャンツを楽しみ、言葉だけではなく、非言語表現も使って正確に理解する力や適切に表現する力（伝え合う力）が徐々に向上してきている。

しかし、自分の考えを表現することに対しては物怖じしたり、親しくない人とは積極的に関われないといった様子も見られる。それは英語で表現する以前に、人のまねでなく自分はどのような考えをもっているのか、どのように伝えるとより効果的なのか、自己表現の内容をじっくり考えさせる場の設定の工夫や時間の確保が不十分なことなどが原因として考えられる。また多くの人と関わる機会を増やすことや自分を振り返る観点の意識をもつことで、さらにコミュニケーション能力を伸ばすことができると考えられる。

昨年度はこれらの実態を踏まえて、主題を「豊かなコミュニケーション能力を育てる」と設定した。今年度もさらに自分の思いをもって表現できる子どもをめざしてコミュニケーション能力の向上を目指したい。

2 英語科における思考力・判断力・表現力

本研究部では、「豊かなコミュニケーション能力」を育てることを主題に研究に取り組んでいる。「豊かなコミュニケーション能力」とは、子ども自身が人まねでない自分の考えをもって主張したり、いろいろな人と積極的に関わりながら、協調性をもって相手を受容したりできる能力であるととらえた。子どもたちが、表したいことは何かをよく考え、どのように表すかを工夫する過程を経て豊かに表現できる力となりうる。そこで、本研究部では、英語活動における思考力・判断力・表現力を以下のように定義づける。

思考力...身に付けた知識・技能を活用しながら英語や非言語で表すまでの過程において、自分の考えを明確にし、どうすればよりよく伝わるか考え工夫する力。(計画力・メタ認知)

判断力...いろいろな人と関わりをもととすることで、身に付けた知識・技能を活用しようとする力。臨機応変に時・場所・場面・相手に応じて表現や関わり方を決定し実践できる力。(応用力・実践力)

表現力...身に付けた知識・技能を活用しながら自分の思いを言語や非言語表現などを駆使して相手に伝えようとする力。
(英語、表情、声の調子、身振り、絵や文字の表し方)

3 2年次の研究の焦点

上で述べたこれら3つの力をバランスよく身につけ、知識・人間力を身につけた国際人としてのコミュニケーション能力の素地を培うことが本校の研究主題である「未来を生きぬく子ども」の姿につながると考える。さらに副主題である「考え表す子の育成」を目指し、思考力・表現力に重点をおき1年次は研究を進めてきた。

2年次は自分の考えや思いを、だれに伝えたいのか相手意識や目的意識をはっきりさせ、内容や方法をじっくり考えさせる場を設けて思考力を高めるとともに、自己評価や相互評価の観点を態度面だけでなく内容的な視点から見直しを図り、児童が自らを振り返り、さらによりよい表現ができるようにするための評価のあり方を研究する。同時に、教師が効率よく的確に見取り、次時に生かすための評価のあり方を様々な評価方法を吟味することで明らかにしていく。またこれまでと同様に、興味・関心をひくような単元構成の工夫をして、自己表現を楽しみながらいろいろな人たちやいろいろな英語に触れる機会を多くもたせることで、発達段階に応じた表現力を高めたい。

これまでの取組みの基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用させていくことを継続していくとともに、評価の観点を内容面から見直し、児童自身が明確な観点をもち自分や友達を高めていける力や、「豊かなコミュニケーション能力」すなわち子ども自身が自分の考えをもって主張したり、いろいろな人と積極的に関わり合いながら、協調性をもって相手を受容したりできる力を伸ばしていくことを目指したい。

研究内容

「豊かなコミュニケーション能力」の向上のために以下の3点を研究内容として取り上げる。

- 1 自分の思いをもち進んで自己表現させるための単元構成や支援のあり方
- 2 外国の文化や生活習慣と自国の文化の比較のさせ方
- 3 目標にあった自己評価・相互評価の観点の見直し

研究方法

上記3点について、「豊かなコミュニケーション能力」をはぐくむために、以下の手立てをとる。

- 1 単元構成・題材に子どもの興味・関心を引く身近な物や必然性のある物を取り入れ、自己表現の方法を提示し時間を保障する。
- 2 外国の文化や生活習慣の紹介をし、自国と比較し似ている点や相違点に気付き、それに対する感想や自分の考えをもち相手に伝える活動を取り入れる。
- 3 評価項目を見直し、単元を通しての児童の変容や目標にあった評価内容を取り入れた評価カードの改善を図る。

以上3点の方法が、児童にとって有効であったかを自己表現で使用した絵や記録紙、ビデオ、ポートフォリオファイル(自己評価・相互評価)、アンケート調査から検証する。

豊かなコミュニケーション能力を育てる英語活動

～自分の思いをもって自己表現する場の設定の工夫を通して～

主任 室谷 幸代，岩淵 淑子，笹森 宣子

めざす子ども像

相手に伝えるための自己表現を考え，進んでコミュニケーションを楽しむ子ども

研究仮説

自分の思いを相手によりよく伝えるためにはどうすればいいか考えたり自己表現したりする場の設定を工夫することで，豊かなコミュニケーション能力を育てることができるだろう。

研究主題について

1 はじめに

新学習指導要領による外国語活動では，目標を「外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う」としている。会話表現や文法などのスキルを身に付けさせることを直接のねらいとするものではなく，児童の発達段階にふさわしい外国語でのコミュニケーション活動を行うことで，コミュニケーション能力の向上をめざしている¹のである。話す・聞く活動を中心とした体験的な活動を通して，人と関わり合うことの楽しさを味わわせ，すれ違いや誤解があっても，友達や外国の人と分かり合おうとするコミュニケーション能力の育成が求められている。

本校では，昨年度まで主題「伝え合う力を育てる英語活動～活用させることによって，実践できる力へ～」のもと，習得したことを活用し，英語や他の表現方法を使って主体的にコミュニケーションできる子どもを育てるための研究を続けてきた。平成15年度から全校児童が1年生から英語に触れてきているため，英語に対する抵抗が少なく，ゲームやチャンツを楽しみ，言葉だけではなく，非言語表現も使って正確に理解する力や適切に表現する力（伝え合う力）が徐々に向上し，自信もつけてきている。

しかし，自分の考えを表現することに対しては物怖じしたり，親しくない人とは積極的に関われないといった様子も未だに見られる。それは英語で表現する以前に，人のまねでなく自分はどのような考えをもっているのか，どのように伝えるとより効果的なのか，自己表現の内容をじっくり考えさせる場の設定の工夫や時間の確保が不十分なことなどが原因として考えられる。また多くの人と関わる機会を増やすことや評価のあり方などを工夫することで，さらにコミュニケーション能力を伸ばすことができると考えられる。

本年度はこれらの実態を踏まえて，主題を「豊かなコミュニケーション能力を育てる」と設定した。

2 これまでの研究から

昨年度まで「伝え合う力を育てる英語活動」を主題とした研究を続けてきた。児童の日常生活に密着した場面設定をしたり、学校行事に関連した単元構成をしたりすることで、コミュニケーションの楽しさを味わわせたり、活動の意欲を喚起したりすることができた。また、一人では自信のもてない児童のために、グループでの活動を取り入れ、あまり不安を感じずに自己表現ができるような場面を設定した。その結果、グループ内で助け合ったりほめ合ったりしながら、自信をもって活動する児童が増えてきた。しかし、グループ内で役割分担をしても活動に消極的な児童がいたり、話し合いに時間がかかりすぎ、自己表現のための練習時間が確保できないなどの課題も残された。これまで適切に話そうとする態度や正確に理解しようとする態度、そして簡単な英語や外国の文化に対する理解などの、コミュニケーションに必要な基礎・基本は徐々に身につけてきている。なぜ笑顔が必要なのか、なぜ目を見なければいけないのかなどを考えるようになってきた。さらに外国の文化や生活習慣に触れる機会を増やし、コミュニケーションする際に何が大切なのか、自分に足りないものは何かを児童に考えさせたい。また、相手に伝わったかどうかを実感できる評価を行うことで、伝わった喜びやコミュニケーションの楽しさを感じることができる。そのことで自信をもち、いろいろな人と話してみたいという意欲をもたせられるだろう。

全校児童を対象に行ったアンケート調査の結果でも、自分の考えをしっかりと話すことができるかと答えた児童が、学年をおうごとに減っている。来年度はいろいろな英語を使って話すことをがんばりたいという児童は高学年ほど多いことから、英語を話したいという意欲はあっても、人前で話すことは自信のないことがわかった。

そこで本年度は、人まねでない自分の考えをもてるような自己表現の場を工夫した単元構成（指導計画）や、具体的な発信や受容の表現の提示の仕方を工夫し、さらに豊かにコミュニケーションできる力を向上させていきたい。また、自己評価の評価項目の見直しをし、自己評価や相互評価の仕方をコミュニケーション能力の向上を実感できるように児童に提示していきたい。いろいろな対象の相手を意識させ、多くの人に接し、英語に多く触れさせる日常の取り組みを重視しながら英語に触れる機会を多くしていく。どうすれば相手に伝わるか児童自身が考える場と時間をしっかりと確保し、思考力と表現力の向上につなげたい。

図1：豊かなコミュニケーション能力とは

2 英語科における思考力・判断力・表現力

本研究部では、「豊かなコミュニケーション能力」を育てることを主題に研究に取り組んでいる。「豊かなコミュニケーション能力」とは、話す・聞く活動を中心とした体験的な活動を通して、人と関わり合うことの楽しさを味わわせ、しっかりと自分の考えをもち、いろいろな自己表現の方法で主張したり、すれ違いや誤解があっても、友達や外国の人と分かり合おうと相手を受容したりする力だと考える。よく考え工夫する過程を経て豊かに表現できる力となりうる。

そこで、本研究部では、英語活動における思考力・判断力・表現力を以下のように定義付ける。

思考力...身に付けた知識・技能を活用しながら英語や非言語で表すまでの過程において、自分の考えを明確にし、どうすればよりよく伝わるか考え工夫する力。（計画力・メタ認知）

判断力...身に付けた知識・技能を活用しながらいろいろな人と関わりをもとうとす

る力。臨機応変に時・場所・場面・相手に応じて表現や関わり方を決定し実践できる力。(応用力・実践力)

表現力...身に付けた知識・技能を活用しながら自分の思いを言語や非言語表現などを駆使して相手に伝えようとする力。

(英語, 表情, 声の調子・身振り・絵や文字の描写力)

3 年次の研究の焦点

上で述べたこれら3つの力をバランスよく身につけ、知識・人間力を身につけた国際人としてのコミュニケーション能力の素地を培うことが本校の研究主題である「未来を生きぬく子ども」の姿につながると考える。さらに副主題である「考え表す子の育成」を目指し思考力・表現力に重点をおき研究することとする。

自分の考えや思いを、だれに伝えたいのか相手意識や目的意識をはっきりさせ、内容や方法をじっくり考えさせる場を設けて思考力を高めていきたい。また興味・関心をひくような単元構成の工夫をして、自己表現を楽しみながらいろいろな人たちやいろいろな英語に触れる機会を多くもたせることで、表現力を高めたい。

これまでの取組みの基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用させていくことを継続していくとともに、「豊かなコミュニケーション能力」すなわち子ども自身が自分の考えをしっかりと主張したり、いろいろな人と積極的に関わり合いながら、協調性をもって相手を受容したりできる力を伸ばしていくことを目指したい。

4 副題 ~自分の思いをもって自己表現する場の設定の工夫を通して~ について

自分の思いや考えをもつということは英語活動の時間に限ったことではない。母国語でいろいろな形で表現する活動を通して徐々に培われていくものと考え。ではなぜ英語活動なのか。これからの未来における目指す子ども像は、国際人として世界に通用する人材の育成の他にないと思う。まずは何語であれ、言葉で自分の考えをはっきり主張し伝えることの大切さを学ばせていかなければならない。それに加えていろいろな人種や自分の周りを取り囲む家族や学校の友達や先生や地域の人と言った様々な人との関わり合いを通して、他の人の考えや人を受容する態度も兼ね備えなければならない。それには多くの国で公用語として使われている英語を手段として、達成しようとする試みは必然ではないだろうか。母国語を大切にまた母国を大切に思う心やその良さを感じるには、外国語に触れ比較したり感じ取ったりしていくことで養われる物と考える。

このような理由から、よく考え豊かに表現できる子どもを育てるには自分の思いを表現せずにはいられないような場の設定の工夫こそが肝要となる。そして、それは自己表現の活動の場が、自然に楽しくコミュニケーションできる場となりうる。自分の意志をはっきりと示すことすなわち「イエス」「ノー」をはっきり示す子どもを育てていくには英語活動の時間において特に有効であると考え。

研究内容

「豊かなコミュニケーション能力」の向上のために以下の3点を研究内容として取り上げる。

- 1 自分の思いをもち進んで自己表現させるための単元構成や支援のあり方
- 2 外国の文化や生活習慣, 発信・受容表現の具体的な例の提示の仕方
- 3 自己評価・相互評価の工夫

研究方法

上記3点について、「豊かなコミュニケーション能力」をはぐくむために有効となるように、以下の手立てを行う。

- 1 単元構成・題材に子どもの興味・関心を引く身近な物や必然性のある物を取り入れ、自己表現の方法を提示・時間を保証する。
- 2 外国の文化や生活習慣の紹介をし、具体的な場面（自己主張・聞き返す・お礼・拍手・うなづくなど）の英語表現や態度を繰り返し習得させ、他教科や日常の活動でも取り入れる。
- 3 評価項目の見直しをし感想を書かせ、自己の振り返りや互いに高め合う評価の工夫をする。

以上3点の方法が、児童にとって有効であったかを自己表現で使用した絵や記録紙、ビデオ、ポートフォリオファイル（自己評価・相互評価）、アンケート調査から検証する。